

授業概要

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育Ⅰでは、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史の変遷などを指導する。授業においては、テキストや視聴覚教材を通して知識の獲得を図るとともに、ディスカッション等により、知識を深められるよう指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション、障害児保育Ⅰの概要
第 2 回	障害の概念、歴史の変遷、インクルーシブ保育
第 3 回	合理的配慮の理解、障害児保育の基本
第 4 回	知的障害児の理解と支援①知的障害の特徴・支援
第 5 回	知的障害児の理解と支援②ダウン症児等
第 6 回	肢体不自由児の理解と支援
第 7 回	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援
第 8 回	視覚障害児の理解と支援
第 9 回	聴覚障害児の理解と支援
第 10 回	言語障害のある子どもの理解と支援
第 11 回	場面緘黙のある子どもの理解と支援
第 12 回	発達障害のある子どもの理解と支援①ASD
第 13 回	発達障害のある子どもの理解と支援②ADHD・SLD
第 14 回	生活課題を抱える家庭の子ども：子ども虐待
第 15 回	生活課題を抱える家庭の子ども：多文化、貧困家庭
第 16 回	筆記試験またはレポート

到達目標

- ・障害児・者に関する理念や権利、その背景に関する考え方を説明できる。
- ・各種の障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの特性を説明できる。
- ・各種の障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの特性に応じた援助を考えることができる。

履修上の注意

授業には主体的に参加することが重要である。レポート課題などは作成のルールや〆切を明示するため、それをよく確認して適切に対処すること。やむを得ず授業を欠席する場合、授業資料は出席する受講者にとっておいてもらうようにすること。遅刻・欠席をした場合、出席した受講者から授業内容を確認しておくこと。

予習・復習

ディスカッションなどを行うにあたり、障害児保育に関する基本的な知識についての予習・復習を授業外で行う必要がある。そのための課題については授業内で案内する。

評価方法

課題などを含めた授業への主体的な参加50%、筆記試験または最終レポート50%によって評価する。

テキスト

- ・教科書名：障害児保育演習ブック
- ・著者名：松本峰雄・増南太志
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年 (ISBN)：2021 (9784623090686)